

木漏れ陽

7月

平成29年7月6日 第46号

発行佐賀市教育研究所

発行責任者 所長 中村祐二郎

「若手育成」は、本人の意識と学校の指導・支援体制の確立で

先日、佐賀市初任者研修会が行われましたが、各学校では、初任者に限らず、講師等を含めて20～30代の教職員が増えており、若手の育成が学校の大きな課題となっています。新学習指導要領が公布され、教育の変革が求められるこれからの時代、教職員に求められるものは大きいです。若手を育成していくことは、学校運営全体にも大きくかかわってきます。

初任者研修の際の挨拶でも申し上げましたが、「若手育成」のためには、①自分に自信をもってチャレンジできるよう本人の意識を変えること、②若手がいつでも相談できるよう学校で指導・支援体制をつくること、③一人で抱え込んでしまったり、危機をなかなか認識できなかったりする若手がいるかもしれないので管理職や主任等が積極的に声をかけることが重要になってきます。

この3つについて、具体的なポイントを挙げてみます。

①自分に自信をもってチャレンジできるよう本人の意識を変える。

- ・若手一人一人には、その人がもつよさや可能性はあるはず。そのことをしっかりと認識させることが重要である。
- ・本人が知っているよさに自信をもたせるだけでなく、本人は知らないが周りが知っているよさは積極的に伝えること、本人や周りがまだ気づいていないよさを見つけ意識させること（「ジョハリの窓」の活用）について校内研修等を行う。
- ・若手にも出番や役割を与え、校内外の様々な場で活躍できるようチャレンジさせるとともに、取り組んだことに対してしっかりと励ましや称賛を行い、「自分もできるんだ」という自信をもたせる。

②若手がいつでも相談できるよう学校で指導・支援体制をつくる。

- ・若手は困った問題が起こっても、周りの教職員が忙しそうにしていると遠慮して指導・支援をお願いできない場合がある。
- ・学年や学校全体（初任者なら初任研指導教員も）で、「困ったときはいつでも相談していい」という雰囲気をつくることが重要である。
- ・学年に複数の学級がある場合は学年主任、単学級の場合は教務主任（指導教諭）が責任をもって「若手を育てる」という意識をもつとともに、学年主任や教務主任だけでは指導・支援が難しい場合は、管理職はもちろん、学校全体で指導・支援を行うよう進めていく。

③一人で抱え込んでしまったり、危機をなかなか認識できなかったりする若手がいるかもしれないので管理職や主任等が積極的に声をかける。

- ・若手の中には、何とか自分で対応しようと一人で抱え込んでしまったり、危機管理意識が薄く、問題をなかなか認識できなかったりする教職員もいることを認識する。
- ・「何も相談がないから大丈夫だ」ではなく、相談がないときほど「本当に何もいいのか」を確認したり、管理職や学年主任、教務主任等から積極的に声をかけたりする。
- ・危機管理意識の醸成とともに、「報告・連絡・相談」の大切さを会議や研修等の場で確実に伝えていく。

～．．．～
上記の3つは当たり前のことで、どの学校でも十分に行われているとは思いますが、忙しい毎日が続いている学校現場では分かっているにもかかわらず実践できなかったり、ついつい見過ごしたりしてしまいがちです。

今年度に入ってから、若手に限らず、メンタルで体調を崩したり、病休を取ったりしている教職員が増えています。特に担任が健康を害し、休まなければならない事態になったら、子どもたちの教育に大きな影響を及ぼしますし、今年度のように講師がなかなか見つからない状況の場合、級外職員が担任とならざるを得なくなり、学校運営自体が大きな危機となります。そうならないためにも日ごろの取組が何より重要です。

ただ、指導・支援が重要だからといって、何にでも口出し手出しをし過ぎてしまったら、いつまでたっても若手の育成は進みません。任せてよいところと指導・支援すべきところのバランスには十分に気を付けていただければと思います。

平成29年度教育研究所がスタートしました。

平成29年度佐賀市教育研究所の顧問及び所員の先生方が決まり、5月29日(月)に第1回合同教育研究所委員会が開催されました。いよいよ平成29年度の研究が始まります。佐賀市教育研究所は、昭和28年に立ち上げられました。佐賀市の教育の向上を目指して、研究したことを広めるべく脈々と続いています。今年度のメンバーは、各部お二人の顧問の先生と課題研究部10人、児童生徒理解部12人の所員の先生です。今後それぞれに分かれて研究に取り組み、平成30年1月25日予定の佐賀市教育研究発表会で研究の成果を発表する予定です。課題研究部は、「主権者教育」と佐賀市が推進している「市民性を育む教育」にスポットを当てて研究に取り組み予定です。「社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を身に付けさせる」ための授業実践に取り組んでいきます。なお、昨年度の取り組みについては、各学校へ研究紀要(CD-ROM)をお送りしていますので、ぜひご覧ください。

| 課題研究部 | | | | 児童生徒理解部 | | | |
|-------|--------|----|------|---------|--------|----|-------|
| 顧問 | 富士小学校 | 校長 | 小川徳晃 | 顧問 | 兵庫小学校 | 校長 | 本村秀一郎 |
| 〃 | 城北中学校 | 校長 | 加藤吾郎 | 〃 | 思斉中学校 | 校長 | 川崎智幸 |
| 所員 | 循誘小学校 | 教諭 | 中村希望 | 所員 | 日新小学校 | 教諭 | 中島正敏 |
| 〃 | 鍋島小学校 | 教諭 | 橋爪健太 | 〃 | 神野小学校 | 教諭 | 小宮良基 |
| 〃 | 川上小学校 | 教諭 | 江口将史 | 〃 | 西与賀小学校 | 教諭 | 米田 純 |
| 〃 | 春日北小学校 | 教諭 | 田川雄基 | 〃 | 兵庫小学校 | 教諭 | 吉田恭子 |
| 〃 | 三瀬小学校 | 教諭 | 菖蒲 彩 | 〃 | 高木瀬小学校 | 教諭 | 松田洋子 |
| 〃 | 成章中学校 | 教諭 | 田原典尚 | 〃 | 春日北小学校 | 教諭 | 古賀美奈子 |
| 〃 | 城南中学校 | 教諭 | 山口真美 | 〃 | 成章中学校 | 教諭 | 夏井慶彦 |
| 〃 | 城東中学校 | 教諭 | 浪瀬大樹 | 〃 | 城北中学校 | 教諭 | 小池有紀 |
| 〃 | 城西中学校 | 教諭 | 横尾亮秀 | 〃 | 金泉中学校 | 教諭 | 竹下沙弥香 |
| 〃 | 思斉中学校 | 教諭 | 吉末恭享 | 〃 | 芙蓉中学校 | 教諭 | 石田広野 |
| | | | | 〃 | 大和中学校 | 教諭 | 下西 敬 |
| | | | | 〃 | 富士中学校 | 教諭 | 北原佳奈 |

よりよい支援を求めて ～生活指導員の研修から～

佐賀市内小中学校に配置されている生活指導員が72名になって今年度で7年目になります。生活指導員は、支援を必要としている子ども達が、少しでも過ごしやすく、自信をもって笑顔で学校生活を送れるように支援をしています。しかし、支援はそう簡単なものではありません。そこで、生活指導員の資質向上のために、学びの場として年間に十数回の研修を行っています。その内容は、「支援するということ」「子ども達の世界を知る」「記録の仕方」「子ども達の行動の見取り方」「目標設定の仕方」「支援方法」「事例発表」などです。毎月の研修では、前月の振り返りを行うとともに、翌月までの一ヶ月間に何を意識して支援にあたるのか、「心構え～振り返りのポイント～」の中から一つの項目を選び、各自考えて取り組んでもらっています。

心構え～振り返りのポイント (特別支援学級支援員ハンドブック 日本文化科学社 庭野賀津子編より)

- ① 子どもをコントロールしていませんか？
- ② 子どもに共感できていますか？
- ③ 子どもが自信を育める伴走者(共に歩む存在)になれていますか？
- ④ 子どもの自立を目指し、段階的な支援は意識できていますか？
- ⑤ 子どもの心の声を代弁し、正しく通訳できる聞き取りができていますか？
- ⑥ 固定観念にとらわれず、子どもへの柔軟な対応はできていますか？
- ⑦ 周囲の理解を阻害してしまうような支援になっていませんか？



子ども達は様々な特性を持っており、その特性と環境が合わさり、子ども達の姿になっています。生活指導員の支援方法や子ども達との距離感は、まさに子ども達にとっての「環境」で、生活指導員だからこそできることがあります。生活指導員は、子ども達と関わっていく中で、子ども達自身がより自分のことを知り、「こんなときはこんな風にすればうまくいきそうだ。」「よし、やってみようかな。」と気づくことができるように、大きな視点で見守っていけるような存在であってほしいと思っています。

学校教育課 生活指導員担当 堀明日香